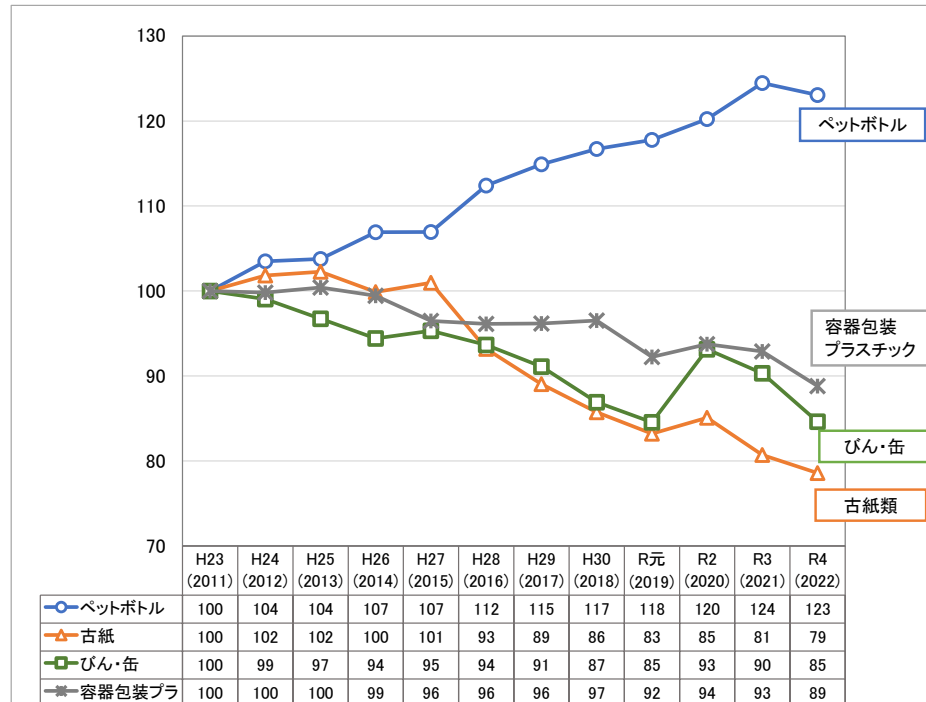


参考資料

参考1. 本市のペットボトルの排出量（令和4年度実績追加）

収集量・原単位伸び率

図表1 原単位の伸び率（平成23年度=100）



図表2 主な資源物収集量（行政回収）の推移

項目	年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
人口(各年10月1日、人)							
ペットボトル	年間量(t)	760	787	793	818	828	879
	原単位(g/人日)	(9.3)	(9.7)	(9.7)	(10.0)	(10.0)	(10.5)
	原単位伸び率(H23=100)	[100]	[104]	[104]	[107]	[107]	[112]
古紙	年間量(t)	10,274	10,467	10,565	10,329	10,565	9,850
	原単位(g/人日)	(126.3)	(128.6)	(129.2)	(126.2)	(127.6)	(117.7)
	原単位伸び率(H23=100)	[100]	[102]	[102]	[100]	[101]	[93]
びん・缶	年間量(t)	2,628	2,604	2,556	2,498	2,551	2,532
	原単位(g/人日)	(32.3)	(32.0)	(31.3)	(30.5)	(30.8)	(30.3)
	原単位伸び率(H23=100)	[100]	[99]	[97]	[94]	[95]	[94]
容器包装プラ	年間量(t)	4,251	4,245	4,292	4,255	4,177	4,204
	原単位(g/人日)	(52.3)	(52.2)	(52.5)	(52.0)	(50.4)	(50.3)
	原単位伸び率(H23=100)	[100]	[100]	[100]	[99]	[96]	[96]

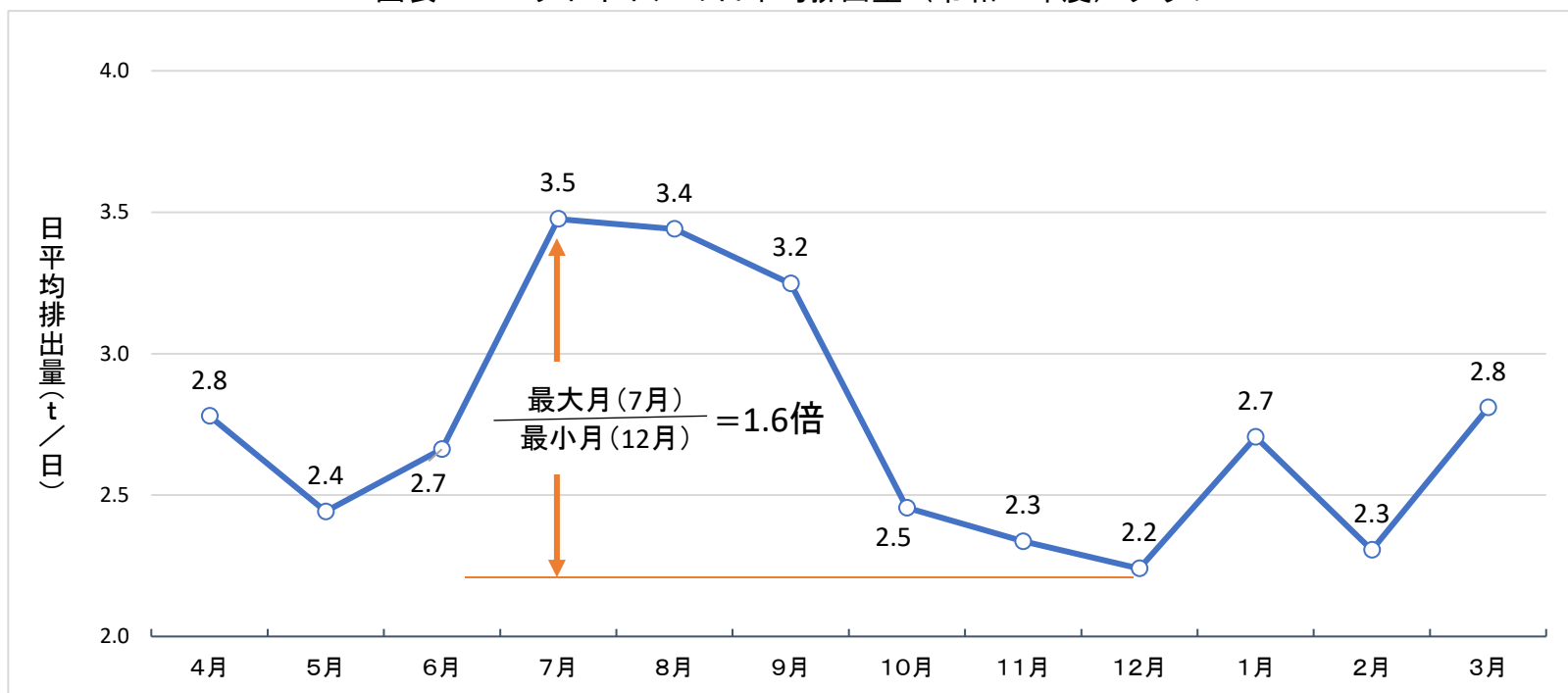
項目	年度	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
人口(各年10月1日、人)							
ペットボトル	年間量(t)	909	935	954	975	1,012	1,002
	原単位(g/人日)	(10.7)	(10.9)	(11.0)	(11.2)	(11.6)	(11.5)
	原単位伸び率(H23=100)	[115]	[117]	[118]	[120]	[124]	[123]
古紙	年間量(t)	9,523	9,285	9,114	9,324	8,869	8,650
	原単位(g/人日)	(112.5)	(108.3)	(105.1)	(107.5)	(102.0)	(99.3)
	原単位伸び率(H23=100)	[89]	[86]	[83]	[85]	[81]	[79]
びん・缶	年間量(t)	1,143	1,161	1,218	1,383	1,293	1,176
	原単位(g/人日)	(29.4)	(28.1)	(27.3)	(30.1)	(29.2)	(27.3)
	原単位伸び率(H23=100)	[91]	[87]	[85]	[93]	[90]	[85]
容器包装プラ	年間量(t)	3,972	3,811	3,655	3,507	3,365	3,198
	原単位(g/人日)	(50.3)	(50.5)	(48.2)	(49.0)	(48.6)	(46.4)
	原単位伸び率(H23=100)	[96]	[97]	[92]	[94]	[93]	[89]

月別収集量

図表3 ペットボトルの月別収集量・日平均排出量（令和4年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別収集量(t/月)	83.4	75.7	79.9	107.8	106.7	97.4	76.1	70.1	69.5	83.9	64.6	87.1	1,002
日平均収集量(t/日)	2.8	2.4	2.7	3.5	3.4	3.2	2.5	2.3	2.2	2.7	2.3	2.8	2.7

図表4 ペットボトルの日平均排出量（令和4年度）グラフ



参考2. 飲料メーカー各社の再生樹脂（ボトル to ボトル）、植物由来樹脂（バイオ原料）使用目標

社名・グループ名	再生樹脂・植物由来樹脂使用目標	出典
サントリー	2030 年までに、グローバルで使用するすべてのペットボトルの素材を、リサイクル素材と植物由来素材に 100%切り替えることを目標とする。 (2022 年までに 50%)	サントリーグループ「プラスチック基本方針」
コカ・コーラ	「ボトル to ボトル」を推進し、2030 年までにリサイクル PET 樹脂または植物由来 PET 樹脂を使用した PET ボトルの割合を 100%にすることを目標とする。 (2021 年までに 50%)	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社「容器の 2030 年ビジョン」
伊藤園	2030 年度までにペットボトルに使用するリサイクル素材（生物由来素材を含む）の使用率 100%を目指す。 (2025 年度までに「お〜いお茶」100%)	伊藤園グループ「プラスチックに関する方針」
アサヒ飲料	2030 年までに、プラスチック製容器包装（PET ボトル、ラベル、キャップ、プラスチックボトル）の全重量の 60%にリサイクル PET、植物由来の環境配慮素材などを使用する	アサヒ飲料株式会社「容器包装 2030」
大塚ホールディングス	PET ボトルにおけるリサイクル原料と植物由来原料の使用を促進し、2030 年までにリサイクル PET および植物由来 PET の使用割合をグローバルで 50%以上にする。	大塚グループ プラスチックステートメント
キリンビバレッジ	日本国内におけるペットボトルの再生樹脂の割合 2050 年 100%（環境ビジョン 2050） 2027 年 50%（プラスチックポリシー）	キリングループ「環境ビジョン 2050」「プラスチックポリシー」

参考3. ペットボトルのリサイクルによる CO₂ 削減効果について

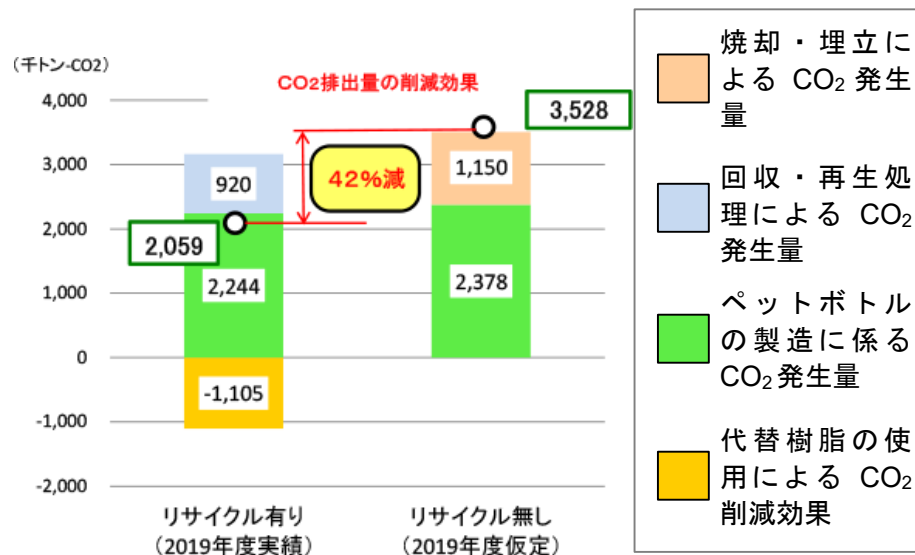
繊維・シート等へのリサイクルによる CO₂ 削減効果

- PET ボトルリサイクル推進協議会は、LCA（ライフ・サイクル・アセスメント）手法により、ペットボトルのリサイクルによる CO₂ 削減効果をごみとして焼却処理する場合との比較で約 42%と試算しています。
- なお、この試算におけるペットボトルのリサイクルは、シート・繊維・成形品などへの再生を想定しており、飲料用ボトルへの再生「ボトル to ボトル」は含んでいません。

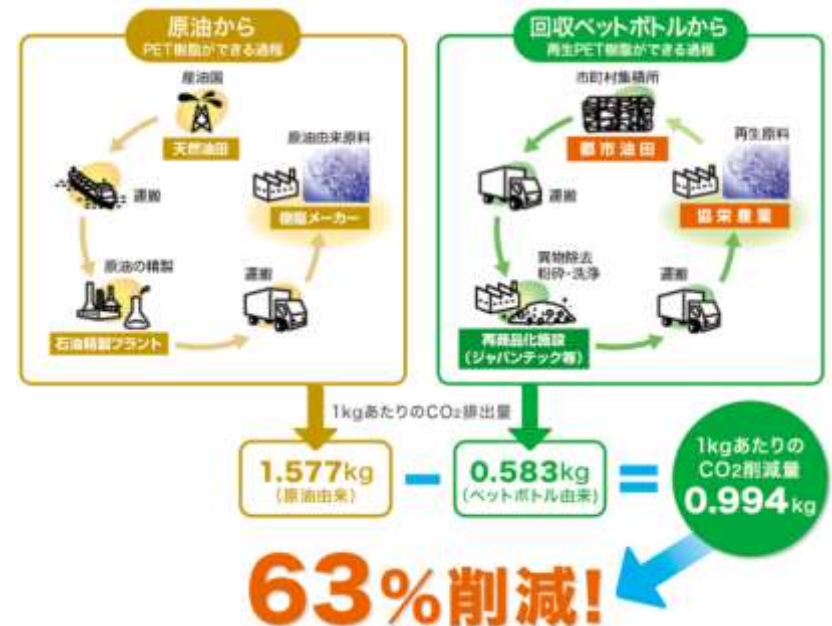
ボトル to ボトルによる CO₂ 削減効果（樹脂製造段階）

- 「ボトル to ボトル」は比較的新しい技術であるため、CO₂ の削減効果に関する知見の蓄積もこれから、という段階にあります。
- なお、コカ・コーラやサントリーと連携して多摩地域のボトル to ボトル事業を進めている協栄産業株式会社（栃木県）は、自社の再生樹脂の製造にかかる CO₂ 排出量は、石油原料から PET 樹脂を製造する場合と比較し、約 63% 少なくなるとしています。

図表 5 LCA 手法による CO₂ 総排出量削減効果



資料：PET ボトルリサイクル推進協議会



資料：協栄産業株式会社ホームページ